

あさほタイムズ 6月号

6月に入り、ジメジメとした本格的な梅雨が近づいてきました。憂鬱な雨ばかり…と思いきや、保育園では、この季節ならではの、たくさんの発見を楽しむ子どもたちの姿があります。

次第に色づくアジサイの花の変化に気づき、雨の降り方によって音や空気の香りの違いにまで気づく子どもたちです。日々、子どもたちは五感をフルに使って自分の周りの世界をとらえているんだな～と、私たち大人が驚かされることばかりです！！子どもたちの観察する目や鼻、耳は素晴らしいですね。

☆さて、今回は2歳児でよくある姿についてお話したいと思います。

『あれもこれも…〇〇ちゃんの！！』

「昔は何でも気持ちよくお友だちに貸してあげられたのに、最近意地悪を言うようになったので困っています。」

こんな相談が2歳児になるとよく聞かれます。

さっきまで使っていて、置きっぱなしにしていたおもちゃを、誰かが使おうものなら、「〇〇ちゃんの！！」と取り返そうとします。あれもこれも「自分のもの」で貸してあげられない状態です。

今は使っていないじゃない…貸してあげなよ、と大人は言いたくなりますよね。

でもこれが「貸して・いいよ」ができるようになる入り口のサインなんです！！

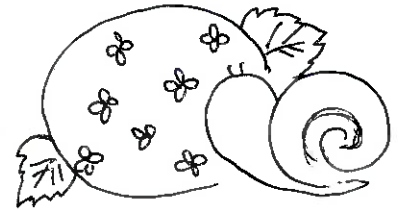
何にでも無沈着で、他人に貸してあげられるということは、単に『物の所有』がまだわかっていないのです。

この一時期の「貸してあげたくない」という気持ちがいっぱいになっているとき、子どもたちには『これは〇〇ちゃんのXX』ということがわかってきているのです。

「そうだねこれは〇〇ちゃんのXXだね」と周囲に認められて、『自分の領域』がわかるのです。そして、この領域がくっきりと他人のものと区別してわかるようになってきた時に、『他者の領域』がわかってきます。『これが〇〇ちゃんの。あれが□□ちゃんの。』と。

自他の区別がしっかりついたからこそ、『これは〇〇ちゃんのだけど、貸してといわれたから貸してあげよう。』『これは□□ちゃんのだけど、貸してほしいから貸してって言おう』と本当の意味での「貸して・いいよ」がわかるのです。

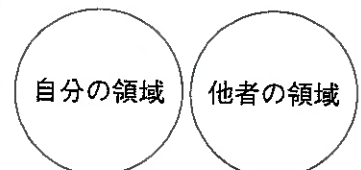
『〇〇ちゃんが！！』『ジブンで！！』もこの時期の子どもたちの得意な言葉です。本当にやり遂げる力はなくとも、自分が何でもできるようになってきたことが嬉しく、その力を発揮したい気持ちがいっぱいのあらわれです！この時期に、『私ってすごいな！』『ぼくってうまいな！』と周囲の大人と一緒に自分と自分のことをめいっぱいほめて、自我を太らせていきましょう。



自他の領域が未分化なころ



自分の領域がわかる
貸してあげられないころ



自分の領域も相手の領域もわかる
「貸して」「いいよ」のやりとりができる

参考文献

「子どもの見方」

二・三をよせて

0,1,2歳児の発達

西川由紀子著